

上河原崎前山遺跡 (かみかわらぎまえやまいせき)

所在地：つくば市上河原崎字前山 403-3 番地ほか

調査期間：令和元年8月1日～令和2年3月31日

調査面積：6,871 m²

委託者：茨城県土浦土木事務所つくば支所

調査原因：上河原崎・中西特定土地地区画整理事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団(つくば上河原崎事務所)

Tel: 029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

1 遺跡の概要

上河原崎前山遺跡は、つくば市南西部、西谷田川左岸の標高約20mの台地上に立地しています。当遺跡の周辺には、元宮本前山遺跡や下河原崎谷中台遺跡などをはじめとする古墳時代の遺跡が点在し、中でも古墳時代中期(約1,600年前)の集落跡が多く確認されています。当遺跡の発掘調査は今回が初めてで、古墳時代を中心とする集落跡を確認しました。



遺跡位置図(「いばらきデジタルマップ」より)

2 調査の成果

今回の調査では、現在までに竪穴住居跡7軒、土坑28基、陥し穴1基、溝跡2条、石器集中地点2か所を確認しました。住居跡は全て古墳時代中期のもので、短期間に営まれた集落であったことが明らかになりました。住居跡は調査区の南側に集中しているため、集落の北端部分にあたる可能性があります。主な出土遺物は、土師器の高坏や埴、甕など一般的な土器類のほか、勾玉やガラス製白玉などの小さな玉類、鉄斧や舟形土製品などの特徴的な遺物も出土しました。ガラスや鉄といった素材は入手困難なものであり、マツリで用いられたと思われる舟形土製品も茨城県では類例が極めて少ない資料です。こうした遺物は、他地域との交流・交易によってもたらされたと考えられ、地域の様相や当集落の性格を考える上で貴重な資料となります。



真上からみた調査区(写真左が北)



古墳時代中期の舟形土製品

